

## 衛星航法システムに関する国際委員会（ICG）第6回会合 共同声明（仮訳）

衛星航法システムに関する国際委員会（ICG）第6回会合は、ICGメンバー、準メンバー及びオブザーバーによって衛星航法システム（GNSS）の開発に関する検討と議論を行い、GNSSを利用したサービスや応用利用に係る最新動向に関する発表を行うため、2011年9月5日から9日まで日本の東京にて開催された。また、本ICGでは、農業、漁業、情報技術、建設（精密測位）、地理空間情報システム、防災、高度道路交通システム及び位置情報サービスの分野におけるGNSS技術の応用利用についても検討が行われた。

今回の会合は日本政府が主催した。本会合には、中国、インド、イタリア、日本、マレーシア、ナイジェリア、ロシア連邦、アラブ首長国連邦、アメリカ合衆国及び欧州連合が参加し、政府間機関又は非政府組織からは、GPS民生利用連絡会議（CGSIC）、宇宙空間研究委員会（COSPAR）、欧州宇宙機関（ESA）、欧州位置情報測定システム（EUPOS）、国際測量者連盟（FIG）、国際測地学協会（IAG）、IAG基準座標系欧州小委員会（EUREF）、国際度量衡局（BIPM）、国際地球回転及び基準座標系事業（IERS）、国際GNSSサービス（IGS）が参加した。また、国連宇宙部及び国際電気通信連合（ITU）の代表も参加した。オーストラリアは、招待によるオブザーバーとして参加した。宇宙機関間運用諮問グループ（IOAG）及び国際航空連盟（FAI）も本会合に出席し、ICGからそれぞれ新オブザーバー及び準メンバーとして認められた。インドネシア、ベトナム、タイ及び大韓民国の代表も参加した。

ICGは、国連総会が2010年12月10日の総会決議65/97において、ICGが全球及び地域的な宇宙基盤の測位・航法及び時系システムの共存性と相互運用性の実現に向け、また、衛星航法システムの利用拡大と、国家、特に発展途上国の基盤システムへのGNSSの統合を促進する上でICGが前進したことを想起するとともに、ICGが2010年10月18日から22日にイタリアのトリノでイタリアと欧州委員会の共催により第5回会合が開催されたことに満足をもって留意した。

ICGは、共存性及び相互運用性、GNSSサービス性能の向上、情報の普及と能力強化及び測地座標系・時系・応用利用といった課題に焦点を当てたワーキンググループが開催されたことに留意する。

ICGは、共存性と相互運用性に関するワーキンググループAが、2011年6月にウィーンの国連事務所で開催された会期間会合及び今回のICG第6回会合で行われた2日間の発表と議論を通じて、現在の4つの作業計画の全てを検討したことに留意する。干渉検知及び緩和、オープンサービスの提供、マルチGNSS情報網による性能監視が最大の焦点分野となり、ワーキンググループの4つの勧告のうち3つをこれらが占めた。マルチGNSS監視及び相互運用性に関するセッションは、ワーキンググループB及びDと共同で開催された。この結果、これらのワーキンググループと建設的な対話がなされ、国際的なGNSS監視と評価を総合的に調査するため、サブグループの設置を含めた具体的な措置に関する計画が合意された。

GNSSサービス性能の向上に関するワーキンググループBでは、特に災害情報の配信について議論した。衛星航法システムは本質的な貢献ができるものの、サービス概念には更なる詰めが必要である。この課題の重要性を受けて、グループの作業計画に新たな作業項目が追加された。更に、現在の作業計画内の既存の活動が確認されるとともに、同ワーキンググループメンバーによる発表もこの活動に反映され、また、屋内測位、信号認証、精密測位、交通、海洋・宇宙応用を含む様々な分野で順調な進捗状況が示された。ワーキンググループBにおいては、応用利用に関係するますます多くの課題の紹介及び議論が行われたことから、応用利用に特化したサブグループを設置することで一致した。

情報の普及と能力強化に関するワーキンググループCでは、発展途上国に対する能力強化のための訓練、科学利用の道具としてのGNSS技術の利用推進、国際宇宙天気イニシアチブ、GNSS応用利用の地域的ワークショップを含む作業計画の更なる局面に触れた。GNSSに関する教育と訓練のプログラムについての新たな項目が作業計画に追加された。

測地座標系・時系・応用利用に関するワーキンググループDでは、現在ICGで表明されている衛星航法システムの測地座標系及び時系のテンプレートの開発を完了させた。同ワーキンググループでは同時に、同テンプレートがICGのウェブサイトで公表されることを提案した。同時にICGは、各GNSSにて放送されるUTCをより良く調和するために使用可能な直接取得がより可能になる時刻基準としての「Rapid UTC」の生成に向けたBIPMの作業の進捗を歓迎した。同ワーキンググループは、IGS基準局網との定常的な処理に取り込むために、関心のあるプロバイダーへ対して、それぞれのモニター局のデータを提供することを勧告した。そのデータ取り込みは、種々のGN

SS測地座標系同士やITRFとの整合性を改善することを狙っている。ICGが承認した重要な新規開発としては、前回のICGで承認されたアジアオセアニアにおけるマルチGNSSに関する組織的活動を引き継ぐマルチGNSS IGS M-GEXがある。

ICGは、2012年11月4日から9日に北京で第7回会合をホストする旨の中国の申入れを受け入れた。国連宇宙部では、ICG会合及びプロバイダーズフォーラムの事務局として、同会合、中間計画会合及びワーキンググループ会合の活動のための準備を支援する。ICGは、2013年12月に第8回会合をホストするとのアラブ首長国連邦による関心表明を認識した。